

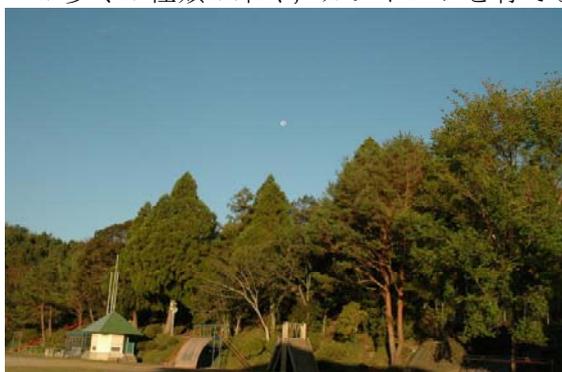
三股町立勝岡小学校の学力向上への取組



1 学校の概要

本校は児童数306名、各学年2学級の中規模校である。学校の南側にはのどかな田園風景が開けている。都城市に隣接し、北側には国道269号線が走り、住宅街も広がっている。自然環境が豊かであるとともに、さらに生活の利便性もある地域である。

また、本校の最も大きな自慢は「みどりが丘」である。運動場の北側に大きな丘が存在し、赤松、杉、クヌギ、樺の木、ユズリハ、ツツジ、もみじ等の多くの種類の木や、カブトムシを育てるための小屋、緑陰教室用のベンチやテーブルがある。



みどりが丘

児童は、この「みどりが丘」がとても好きで、昼休み時には鬼ごっこの隠れ家になったり、探検遊びの場になっている。また、総合的な学習の時間での調べ学習や生活科や理科学習の観察の場になっている。

この「みどりが丘」を元に生まれたキャラクターが上にあるハグリエンジェルである。これは、みどりが丘にある「葉」と「栗」をイメージしたもので、校内の掲示物などに登場し、みんなから親しまれている。



正面玄関

2 児童の実態

本校児童の最も特徴的なことは、あいさつが元気なことと返事がしっかりとできることである。あいさつについては計画委員会を中心に「朝のあいさつ運動」が計画され、輪番制で各学級の代表が児童玄関の前であいさつ運動をしている。また、返事も元気よくできており、話をされる人の問いかけには必ず「はい。」と返事を返している。また、6年生は、4月から毎朝「ボランティア活動」として、玄関や運動場などの清掃活動を毎日続けている。これらのあいさつや返事、ボランティア活動は本校の伝統として受け継がれている。



あいさつ運動



ボランティア活動

3 学力向上に向けた経営方針

本校は「体・徳・知の調和のとれた教育を推進し、人間性豊かな児童の育成を図る。」の教育目標のもと、以下のように「教育的課題」「重点指導計画」「努力点」「具体策」を掲げ、学力向上に努めている。

① 教育的課題

生き生きと学習し、自ら学び自ら考え、良さや可能性を発揮する児童の育成



② 重点指導内容

- (1) 各教科の基礎的・基本的事項の確実な定着と基礎学力の向上
- (2) 主体的な学習態度の育成と、個性、個人差を重視した学習指導の工夫改善
- (3) 総合的な学習の時間の実践の充実
- (4) 情報教育の推進



③ 努力点

(各教科の基礎的・基本的事項の確実な定着と基礎学力の向上)

- (1) 「わかる」「かわる」「できる」授業の実践
- (2) 基礎的・基本的事項の定着
- (3) 評価の改善・活用
- (4) 基礎的学習態度の確立

(主体的学習態度の育成)

- (1) 学習指導方法の工夫改善
- (2) 総合的な学習の時間の充実



④ 具体策 (以下の項目と重なるため省略)



1年生・研究授業



6年生・研究授業

4 教育課程内の取組

(1) 校内研修との関連

本校の校内研修は、「人として生きる確かな力を身に付けたかがやく勝岡っ子の育成」を研究主題として掲げ、よりよい人間関係の醸成を図る指導と算数科の基礎学力を向上させる指導の一体化を図る授業実践の充実に努めている。

特に算数の基礎学力の向上に関しては、「基礎学力研究班」が中心になり、研究授業での実践を重ねながら研究を深めている。基礎学力研究班では、算数科の指導において問題解決的な学習を重視し、



5年生・研究授業

「つかむ・見通す」段階における指導の充実、考える力の育成を図る指導法の改善、チャレンジシートや学力テストのデータの蓄積と個別指導への生かし方等について実践を深めたことにより、既習事項を活用した主体的な問題解決や計算力の向上が見られるようになったと分析している。

(2) 週、校時程の工夫など

毎週水曜日の業間の時間に「算数チャレンジタイム」を設定し、基礎基本の定着を図っている。特に、計算領域に絞り、全学年の復習や特に落ち込みの激しい領域をプリントで練習している。3年間の実践が積み重ねられ、プリントなども豊富に準備できている。

また、月曜日と金曜日の朝自習の時間はドリル学習を中心とした取組を行っている。さらに、水曜日の朝自習の時間は保護者がボランティアとして来られ、全学級で「読み聞かせ」が行われている。



読み聞かせ・6年

(3) 基本的な学習態度の確立

毎月、学習部が中心となって「まなびっ子週間（学習訓練）」を設定し、聞く・話す態度などの基本的な学習態度の形成を図っている。まなびっ子週間の毎月のめあては次のようになっている。

- ・ 4月…先生や友達の話をしっかり聞きましょう。
- ・ 5月…机の中の整理整頓をしましょう。
- ・ 6月…次の時間の学習の準備をしましょう。
- ・ 7月…正しい姿勢で座りましょう。
- ・ 9月…指名されたら「はい」と元気よく返事をして立ちましょう。
- ・ 10月…大きな声で発表しましょう。
- ・ 11月…たくさん本を読みましょう。
- ・ 12月…姿勢よく正しく美しい文字を書きましょう。
- ・ 1月…声の音量の約束を守りましょう。
- ・ 2月…放送を静かに聞きましょう。
- ・ 3月…落ち着いて学年のまとめをしましょう。

(4) 読書の啓発と習慣化

毎月第4木曜日の朝の時間（かがやきタイム）は、全校一斉読書活動を行っている。また、6月にはファミリー読書週間を設け、各家庭に「図書だより」を通じて家族読書と呼びかけている。10月には「本となかよし月間」を設定し、児童の読書意欲を高める工夫をしている。特に、給食時の放送を利用して、「図書室で読んだおすすめの本」や「家庭で読んだお気に入りの本」などの紹介を行っている。

(5) 算数科における少人数指導について

本年度より算数科における少人数指導が始まった。その進め方については、職員会で共通理解を図るとともに、職員研修でよりよい運営のあり方を検討している。学習形態はチームティーチング、少人数均等割、少人数習熟度別のそれぞれの良さを生かしながら単元の特質や学級の実態に応じて取り組んでいる。また、同一単元の中で、チームティーチングの形態から始め、少人数均等割に移行し、最後の練習の段階は少人数習熟度別で指導するなどの工夫をしている。

これらの取組によって、児童の活躍の場が増えたことやこれまで以上にじっくりと教えてもらえるようになったことから、「算数が楽しくなった。」「算数が分かるようになった。」という声が児童から多く聞かれるようになっている。

5 教育課程外の取組

○ サマーチャレンジ（学力向上プラン）の取組

夏季休業中に、児童一人一人の学習状況を把握し、児童一人一人にあった学習プランを作成して、学力の向上を図る取組を行った。学習内容は、1学期の復習が中心であるが、児童の実態に合わせ全学年までのつまずきがあればその内容から進めるようにしていった。

学習プラン作成の手順は次のようである。

- (1) 1学期に学習した内容で、児童一人一人がつまずいているところを洗い出す。
- (2) なぜつまずいているのかを分析する。
- (3) 児童のつまずきを改善するための手立てを考える。
- (4) 実際に手立てを取って指導していく。
- (5) 練習を繰り返し、定着を図る。

平成17年度は8月2日から8月5日までの4日間、8時30分から10時30分まで行い、全校児童の約82%が参加した。

6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 「みまもりたい」の結成

朝の登校指導だけでなく、地域ぐるみで子ども達の安全を守っていくための「みまもりたい」が5月に結成され、6月には児童との顔合わせ集会が行われた。よく目立つオレンジ色の帽子と腕章がトレードマークで、児童には一目で「みまもりたい」の方々が分かり、安心感と親しみをもって、あいさつをしたり、声を掛けたりしている。



この「みまもりたい」の結成は、児童の学力向上と直接の関係はないが、児童が安心して生活し、安心

みまもりたいとの顔合わせ集会

して学習できる環境を得られることは間接的には学力向上に大きく寄与していると思われる。

(2) 保護者との連携

本年度より始まった算数科における少人数指導については、保護者も強い関心をもっているため学級懇談会やお便りで説明し、理解を得ている。また、家庭学習の方法や親心6か条について各家庭にプリントを配布している。

7 成果と課題

毎日の授業実践を始め、朝自習や業間の短い時間等での様々な一つ一つの小さな取組は、確実に児童の学力を向上させている。このことが自信につながり、「生きる力」となっていることは間違いのないことである。

しかし、この「学力向上」を進める中で直面してくるのが「学力差」の問題である。

次年度、全体の学力を向上させ、少しでも学力差をなくすために、本校の心の教育の研究主題である「一人一人を認め合う心の教育」を大切にし、一人一人のやる気を引き出しながら、授業の指導形態、指導過程の工夫、日常指導のあり方等を研究していきたい。